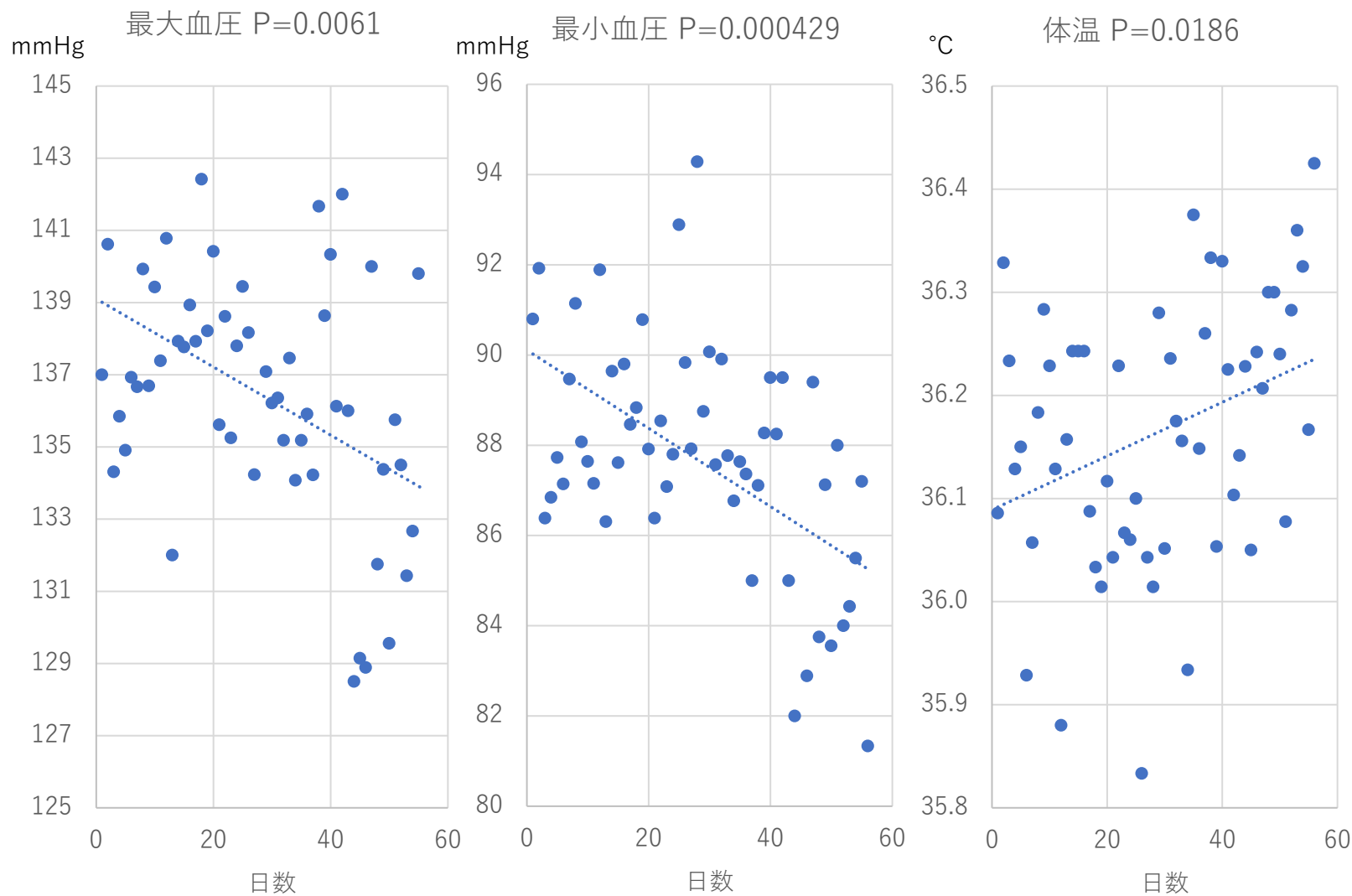


2ヵ月間の重炭酸泉温浴継続による血圧及び体温の変化



コメント：

男性14名、女性3名、計17名（平均年齢 52.2 ± 7.3 歳）の健常人ボランティアについて重炭酸泉家庭入浴を2ヵ月間継続したところ、起床時の最大血圧、最小血圧ともに顕著に低下して温浴日数と有意な負の相関を示し、体温は温浴日数を重ねるごとに上昇して有意な正の相関を示しました（Spearmanの順位相関による各P値は、0.0061、0.000429、0.0186）。

重炭酸泉を使った適切な湯温での入浴により、循環器系に負担をかけることなく血管を拡張させることで、血管の抵抗が緩和されて血圧が安定的に低下し、血液の流れが改善され、熱の産生や運搬が亢進し、体温上昇にもつながったと考えられます。